

今乗つた許りのお客同志が「餘り込み合ふから降りやう」と言ふたのを隙かさず「直ぐお降りになる位なら初めからお乗り下さいますな」とつぶやいたが最後「何を生意氣な乗らうと降りやうと賃金さへ拂へばお客の勝手だ」と俄に十錢玉を叩きつけられたりして、次第次第に世の荒波の洗礼を受けるのを目撃すれば善惡正邪それ何れなるかを判断し難くなる。

圓太郎物語を書き續ければ際限ないが、扱て考へて見る

五十一 議會總勘定

院内より院外へ

××新聞記者

覆面生

忠業妥協から始まつて紛争亂闘に終つたのが五十一議會の特書すべき總決算であつて、政府提出法律案八十六件中未成立二件撤回案一件にて他は悉く通過したるは與黨懣忍

と詰らぬ事だ。詰らぬ事だが扱又考へて見ると其の間につぐぐ考へさせられる事がある。お互に我々は何故もつと自分の仕事そのものを樂みつゝ、慟らく事が出来ぬのだから、自己を愛し自分を尊重する如く、何故もつと他人を愛し他人を尊敬することが出来ないのか。綱紀の振正も交通状態の秩序維持及改善も皆その源は茲に存するであらうと思ふ。

自重の賜物なりなんて言ふ効能書の御吹聴は私共の國民生活には何等交渉がないのである。而も各政黨の議會終了後の發表したる我政黨の威力は……なんて言ふことになつて

呉ると情ない。思はず助船を呼びたくなる夢々其塵甘手に乗つてはならぬ。私共が總勘定を五輪三でやつたときに吾々國民に印象深く刻みつけられたものは代議士——即ち選良なるものの歳費値上騒動である、此の騒動の前には公明正大黨も、産業立國黨も、緊縮黨も、政界革新黨も悉く御辭氣を以て可愛相に幹事には幻滅の悲哀を味はしめたといふことのみが唯一の大なる衝動であつた。然して既成政黨は墓穴を掘るつてね……何んて痛快なことであらう、だが筆者たる私は毛頭危険思想者ではないことを極めて醇良なる國民であることを豫じめ御断りしておきたい。

まづ劈頭に値上騒動記を陳述して私が痛快を絶叫した所を以て誌さなくてはならない。

△表面から見れば極めて醜い増給運動である、其邊でよくやる何々労働團體の値銀増給運動とさして相違がない、然し具さに裏面に流れてゐる真相なるものには錯綜したる事實があるのである。

一 幹事壓迫に對する彈劾的意味

二 時代の要求に應じて國民的覺醒
三 各政黨を通じて縦斷的新政黨樹立

の三點が熱心なる提案者並にこれが發頭人と見做すべき人達の肚裏深く包藏されてゐた思想であり主張であつたのである、假りに三千圓を値上して貰つたとする、始めは賛成者として名を聯ねたるもの二百六十余人の多きに上つた。

それが幹事の風潰しに遭つて忽ち減じて三月廿二日の最後の連署者は百九十四人となつた、之等の人達が一人頭五百圓宛割前を出してざつと十萬圓の金が集まる、それを費用として事務費に宛て、表面の名儀は政黨としての調査機關の擴充とか夫に伴ふべき圖書館の充實とかに藉口して着々と新運動に取り掛る一つの準備行爲であつたと言はれてゐる、これぢや幹事も寢耳に水の様に驚かざるを得ない、然も賛成したる議員の多くは軍隊で言へば二等卒から上等兵に屬する政黨の少壯派である。憲政會の如きは二等卒の部類に屬する更新會といふ第一期生（始めて選出されたるもの）の少壯派が急先鋒であつた、黨の中堅をなすべき私設

團體であり現に黨の院内外幹事を勤めて居る者共が急進派であるのだから、仲々幹事の風潰しは利かない、各政黨を通じてどう最眞目に見ても憲政會の幹事の二三を除いたる他の幹事は水平線以下に屬する者が多い。問題の惹起される事毎に幹事彈劾は有名なものであつた、そして此の運動が纏ては若槻内閣改造に絡む前哨戰に見做されて居る。

或る者は『陣笠時代の出現』であり『陣笠の暴威』であるとなしてゐた、いはゆる結束第一主義が根本から破壊されて熟々幻滅の悲哀を感じたる幹事の手ではどの政黨も防げなかつた、恰も手を以つて猛火を防ぐと同様の危険を感じたのであつた、現に此の超黨派運動に震駭した政府では若槻首相が與黨の黨首としての責務から主動者と認められて居る値上議員の急先鋒たる

永田善三郎、戸田由美、金澤安之助、佐藤實、松田三徳、工藏鐵男、佐藤富十郎、戸澤民十郎の八氏を首相官邸に招致してその意見を聞いたる所衆口一致して『値上問題は如何でもよいのである』となして政黨に對する種々の註文を

吐露したと言はれる、此の八氏の中で松田三徳といふ人の議論をかつて聞いたことがある、此の人は香川縣の地主であつてもと庚申俱樂部所屬で若尾璋人や佐々木平次郎なんていふ人と共に同俱樂部員である、

『僕は憲政會へ藉を移したといふのは何も本心から陶醉したのでもなければ贊美をしたのでもない、政黨なんていふものはホテルと同様で自分の抱懐してゐる意見を吐くのに又實現させるのに都合がよくて住み心地がよいと思へば止宿して居ればよいので、その意味から憲政會ホテルに止宿したのだよ。だが来て見たら思つた様なホテルぢやない、あの番頭共のやることを見てゐると癢に觸はる、〇〇氏などは世間では選舉の神様だ、やれ智慧者だと言つたけれども何が偉いんだか分らない……』その偉くない實例を澤山列擧してボロ糞に攻撃したことを思ひ出したのである、

廿三日の歳費案撤回されたる、當日

『松田君風潰しに遭つたのかい』と擲論したらば

『馬鹿言へ、幹事に風潰しにされてたまるか、まア何事

も聞いて呉れるな」

政友會の兒玉右二君が提案者の一人として同黨の小川平吉氏から撤回を懇請されるときに

「私は立法院の上に立つ吾々議員が虚偽の生活をしてまで國民を欺く様な行爲をしたくない……」

と高唱して處決を受けても嫌だと頑として應じなかつたものである。私は議論をしてゐるのではないのだから、此の御手盛案は廿三日午後一時半頃寂滅して院内交渉室にて一時半頃より夜の八時まで提案者同志が集合して黨に對する面目維持やら、だましたいやだまさないから始まつて決闘騒ぎをしたことに幕を閉ぢたい。歳費値上の歴史としては明治廿三年伊藤公が八百圓を、大正九年七月に經濟界發達の體面維持のために二千圓を、大正九年七月に經濟界發達に伴ふて議員生活保證のため三千圓を、然して今回の六千圓に値上事件を入れて四回目である。

△査問會事件としては讀者諸君も御存じの通り四件である
査問に關する證據蒐集といふことが各政黨とも隨分骨を折

つたものである、梅田寛一君の議員買収事件の證據人として堀喜幸といふ代議士は同じ石川縣選出の米原於免男君に言はせると

「あの男の證言が何になりますか、私は親友ではあるが今度といふ今度は愛想がつかまりましたよ、よくも白々しい顔をしてあんなことが言へたものですね、國へ歸つても誰も對手にしません、平生から金に穢ない男でね……」

と語つてゐる、これぢや梅田寛一君と同臭だと政友會から野次られても鳥渡困るだらう。

△中野正剛君に對する赤化宣傳事件も極めて滑稽なものである。

證據としては煎じ詰めたる所浦鹽の共產黨機關新聞夕紙一枚であつた、提案者の牧野良三君は始めから何一つ材料を有してゐないのであつた、悉く小川平吉氏から渡されたもの許り、證據人として引例されたる眞鶴理徳、加藤峰男、島野三郎、藤田勇等の諸氏にも一度も會つたことがないといふことである、材料の出所は日本及日本人の雑誌を出し

てゐる反三宅派の一派と日本新聞のみである、而もク紙の出所は日露協會の某氏が浦鹽に居たとき發見した社説の切抜であるために新聞の日附を諮問されて日附は忘れて了つて七月廿九日から八月卅一日までであると窮余の策を採つたのだと言ふことである。

某大官に洩れきく所

『如何に露紙とば言ひ乍ら日本人が考いてもあんな文法外れな滅茶苦茶な文章と言ふものはない、外國語學校の露語科の生徒にかかしたものであらう、そして新聞其物が大正八年以降輸入禁止のもので何處にもないといふことを知悉しての奸策であらう』

その反證の實例を引例しての、お説であつた、私には眞偽は分らない、更にク紙の原本が強盜に遭つて取られたといふ事件に就ては中谷刑事部長も松村警保局長も

『どうしても跡方がない……』

と異口同音に打消してゐる。江木さんではないが私には否定すべき事實を肯定すべき事實もないのだから其通りに

首肯するより途はない、その松村警保局長が院内の廊下を歩いてゐたらば後方から背中を叩くものがあるので振り返つて見たらば牧野君であつたので

『おい牧野君嘘もよい加減にしたらば如何だい』

とやつたらば牧野君

『あの新聞の強奪されたことだけは本眞の事だよ』

夫から前述した證據人に就ては憲、政兩派から夫々壓迫やら誘惑やら祕術を盡したといふ話である。

△五十一議會中最初の懲罰事犯を起したる政友會の高橋熊次郎といふ代議士はニツクネーム（赤熊）で通つてゐるが

此の男は最近議會に於ける議事防害者としての三人男の一人である、最初の一人者は前代議士埋葬法案松下禎二博士であり二人目が舊革新系現在政友會に居る小橋藻三衛、次ぎが高橋君といふ順序である。福島縣の大地主であるさうな農業倉庫の政府提案による改正案に就て彼は農村振興策に言及して、牛が如何だ、馬が如何だ種馬が素質が低下したのと三度も登壇して二時間半も悠々とやり其度毎に早速農

相を引張り出し

「未だ農相の答辯は本員の満足とする所でない」

と稱して定足数を欠いてゐる議場を見渡してスクット議

席から立ち上り

「議長々々」

と連呼して四度目の質問のため登壇を請求すること急で

ある、與黨から

「赤熊、黙れ」

と釣瓶落ちに野次が飛ぶ

「先例により議場内では三度しか大臣に對する質疑は許し

てありません」

と小泉副議長から一本參つて

「農業倉庫といふことは農村に取つて大切なことです」

獨り言を言つてゐる程の雄辯家である、彼が最終日の廿

五日にその役所を遺憾なく發揮してあの議場の大混亂を招

致した原因を作つたのである。

當日午前中政友會が三百萬圓問題の報復手段として中野

正剛葬るべしの猛烈なる運動から端を發して赤化宣傳に絡

めて查問會に附議した同事件も不幸證據材料が不備のため

多數黨から一溜りもなくやられて政友會敗戦となり而も反

對に

「牧野奴、虚構な事實を捏造して公人を中傷するが如き行

爲は斷じて許されない、牧野をして自決せしめ様ではない

か」

と三派の論議が決し查問會の報告に籍口して政友本黨の

相田忠一をして處決案の緊急動議を提出し様ではないかと

策戦が極り食事中議員食堂で政本黨の牧山耕造と憲政會の

連中とが忙しさうに往復をしてゐた、これを觀破した政友

會でも、よし敵にその策戦あれば吾にそれ以上の兵法あり

と片唾を吞んで待ち構へてゐると午後一時半から各派交渉

會が開始されて午後の會議は劈頭政友會の軍機問題に關す

る緊急質問を附議して次に建議案をやつて查問會に移らう

ぢやないか」

と意見が決してゐたのであるが、これは表面だけの意見

で各派夫々策戦を描き、

『どうせ最終日だからどんなに暴れても平氣だ、たとへ半
年の懲罰に掛けられても時効に掛つて消滅してしまふ、敵の
心膽をして寒からしめてやれ』

といふのが政友會の腹であつて四時に查問會報告を有耶
無耶にする腹でもあつた、夫には議事を延ばして出来るだ
け時間を消す算段をしなければならぬ。

此の時に慧眼なる策士が氣のついたのは

日程第四三、大正十三年法律第二十四號中改正法律案

(贅澤品等の輸入税に關する件)(高橋熊次郎君外二名提出)

第一議會

にある法律案に眼をつけて議事防害をさしてやらうとい
ふ魂膽であつた、夫れには適役である一つには午前中彼の
懲罰報告がありて陳謝文を讀ませようと多數決にて決した
るが、彼はわざと議席にはゐなかつた、午後にはどうして
も讀まなければならぬ運命に逢着してゐた、これとても何
とかして延期さしてやらうといふ兩様策戦から一層彼を演

壇に立たしめたのである、彼は休憩中控室の一段と高い代

議士會長席に腰掛けて脇目も向かずにセツセツと何か書き
綴つてゐる廣汎な原稿紙を見た同僚は

『おい高橋君やつてゐるなア』

『フン、横車を押すからやるんだよ』

と涼しい顔で。

聽て午後三時頃彼の戰鬪行爲が開始される順番となつた
議長は依然として小泉副議長である、

『議長、緊急質問があります』

連呼して演壇に立つた彼は、どんなことを言ひ出したか

『毎日こうして諸君が御騒ぎになるのは議場内の空氣が悪
いのである、換氣法を設けるとか或は掃除器を設備すると
かして出来るだけ穢い空氣を排出させるといふ方法を講じ
なければ駄目であるそれによつて始めて冷靜なる頭に立ち
返へり議事の進行も出来るといふ譯である……』

綿々として緊急質問が盡きない與黨から

『夫が何の質問になるのだ、赤熊降りろ、馬鹿』

と怒號すれば、副議長も亦

『高橋君、簡單に質問の要旨に觸れる様に言はれたい』

と再三の注意を喰つた彼、憲政會から或は政友本黨の寺田老人の猛烈なる野次を浴せ掛けられても平然として議場に或は議長に向ひ

『これからだんだん質問の要點に這入るのだ、いまその質問に必要な輪廓だけを論及してゐるのだ、其處に早く質問の要旨が言はれるものか』

と空嘯き

『諸君が其處に騒ぐから私は一層此の議場内の悪氣流を一掃することを説述する所以なのだ冷靜に聞きなさい』

と壇上から應酬するので多數黨手も足も出ない、政友會喜んで拍手喝采といふ騒ぎ、多數黨は焦慮して

『議長々々、高橋の發言を禁じなさい、赤熊、引き摺り下ろすぞ』

喧罵を極める。

彼の質疑は依然として雲を掴む様なことを言つてゐる。

竟に小泉議長

『高橋君降壇を命じます、發言を禁じます』

とズバリと首を斬り下ろしたのでサア事だ蜂の巢の壊した様に政友會騒ぎ出し直ちに志賀和多利君外廿数名提出に係る

『小泉議長は議員の言論に壓迫を加へ不公平の措置をすることは怪しからんから議長を忌避する』

といふ一種の議長彈劾案を緊急質問に名を藉りて提出したものだ、小泉副議長憤慨して休憩を宣してサツサツと降壇して了つた、夫からが諸君の知られる通りの掉尾の亂闘劇を演出したのである。その導火線の犯人は彼高橋君であつた、その御蔭で懲罰案も査問會報告も霧消離散して了つて徒らに政友會をして名をなさしめた、なんと少數黨の横暴さではあるまいか、多數黨の策戦の下手なことを。

△此の騒擾の御蔭で議員提出の建議案二百数十件がファイになつて了つた、喜んだのは獨り政友會のみではない、各省の役人連である毎年建議案だの請願だのが澤山あつて遂一

議案について閣議案を作製して調査書を作らなければならぬ實際煩瑣な手数である、所が今年は建議案の分だけが大分その手数を省けるからである何が幸となるか分らない△また騒擾で新に武勇傳中の人として名を上げた議員がある、西方利馬、海原清平、原惣兵衛、志賀和多利、磯部尙安藤正純、内田信也、坂井大輔の諸君である、尤も内田坂井の兩君は去年からであるが去年は政友會だけが暴れたのだからよく目立つた。その列傳を誌さう。

△三月十一日の議場の紛争の際には海原君すつかり喧嘩仕度をしてゐた、白木綿を腹に巻きつけ蹴られても怪我のない様に準備をして而も背廣の悪い洋服を着込んで來て、栗鼠の様な敏活な行動をして敵味方をして一躍海原の名を擧げた、その騒ぎのあつた聖朝憲政會在野黨時代の勇士三木武吉君が政友會の控室に現れて

三木『おい、海原偉ふ暴れたなア、憲政會席の後方からイガ栗頭の背の小さい男が議席の上を義經八艘飛びよろしくあつて飛出して來たのだ幹事共は逆上の中野が飛び出し

て來たのであらうといふので吃驚したら御前であつた、一體海原何處を潜つて出て來たのだ』

海原『議席の下を潜つて飛び出したのだ、松田の奴を擲つてやらうと思つて飛び込んだら逃げ足の早い奴だよ居なかつた』

三木『誰が擲られるのを待つてゐる奴があるか、それにしても政友本黨の連中はおとなしいなア、あれが我黨に賣つて來た喧嘩なら、如何にあの日は、箆口令を喰つてゐても黙つてはゐないよ、憚り作り我輩もなア、だが與黨は辛いなア、あの日だつて俺が廊下へ出様とすると幹事が寄つてたかつて、喧嘩早い御前が出たのでは困る然もその政府委員の徽章がよく目立つて三木までが喧嘩をした、と言はれては弱るから、と俺を出して呉れないには閉口した、其時俺は言つてやつたよ心配をするな政友會の連中は皆仲善しだから顔を知つてゐる喧嘩をする奴がないからとね』

海原『そりやその通りだよ、御前などと喧嘩はいやだよ知らない奴か田崎見たい癩に觸てゐる奴かとなければなア』

三木『俺など野黨九年間懲罰では一等だつたよ、除名覺悟で暴れたのだからなア、早く野黨になつて暴れ様其の時分には倍にして返禮をするよ』

三木武吉朝臣の武勇懷古談が一頻り海原君との間に繰り返へされて政友會の控室をしてヤンヤと唸らせたものだ。

△守衛が何と言ふかと思つて武勇傳を聞いて見たらば、

『政友會の坂井先生の強いには驚きましたよ、私が背後から腰のところをグット持ちましたら坂井先生は平氣で私ぐるみ持ち上げられたので手の施し様がありませんでした何しろ柔道五段であの大きな圖體ですから力のあるのは當然ですね、あれでメリケンを一つ喰つたらば即死者の五人や六人は忽ち出來ますからね』と感嘆久しくしてゐた、彼は敵味方を通じて一等強いであらうといふ話である。

△『金は幾らでもやるから助けて呉れ』で有名な内田信也君會計監督といふ準幹事であり乍ら柔道三段といふ腕力家であるので、十一日ときは廊下で田淵仙人に常身を喰はし廿五日の騒動のときは退場を命じられた志賀和多利君を引

張り下ろさうといふ守衛の中に割り込んで蠻勇を揮つた。

△志賀和多利君、大抵の喧嘩の導火線を切る人である。松田源治擲れの先達者である、次に西方利馬、原惣兵衛、安藤正純といふ人達は素破といふと先陣をやる、要するに血氣の士である、新正俱樂部の俗稱（牛太郎）の渾名のある田崎信藏君と常にいがみ合つてゐる、そして憲政會の生方大吉、山田道兄、奥村千藏金澤安之助工藤鐵男の諸君とも唾み合ふには適役である。吉田磯吉親分が飛び出して來るとサツサと逃げる方である。新人の難波君といふ二段の有段者に田崎牛太郎君も驚いて了つたといふ豪の者も現れて來た、流石に喧嘩は政友會一手販賣の觀がある。

昔の喧嘩騒動に就て犬養毅氏が這歴ことを言つてゐた。『今の連中のは喧嘩ぢやない、武勇傳の部類まで這入らないよ、犬の遠吠えの様だ昔は控室も、議場も府縣別にして敵も味方もゴツタだ。だから意見を異にする同士ぐ掴み合ひだ控室へ引き揚げて來れば又やり直すといふ騒ぎだ。又物一切は勿論金屬性のものは何も所持してはいかんと禁じ

たものだから、天保錢の眞中の穴に糸を通して、此の天保錢を振り廻してまでも喧嘩をしたものだよ。大岡育造といふ男は雄辯家でね何時も仲裁演説をしたものだから重寶がられた。反對に今の林田龜太郎や死んだ長田秋濤などは弱いので保護人がつくといふ騒ぎでね、まア凄かつたね、今のは赤ん坊の喧嘩見たい、大して刺戟もない譯だよ』

と流懐談に花が咲いた。

△どの政黨でもいざ喧嘩といふと喧嘩の障壁となるべき腕力の勝れた院外團が澤山居る。どの政黨へでも行つて見給へ大きな男がぞろぞろ居る、宛然ブルドックを想起する。

その院外團中で腕力者は温着黨の政友本黨に居る藤生某といふ五段の有段者が一等強いさうだ、商賈人の折紙附きだから間違ひのない所である。これには流石の政友會の院外團連中も美事に撃退され手も足も出なかつたといふ自慢話が本黨では傳つてゐる。

△貴族院に宴會政治は何時の内閣にも當然の様に考いられて居る、夫程研究會の諸公は宴會が好きである若い藝者の

顔を見ることが好きである、殊に若槻さんは諒解術の巧者である、現下の政界で貴族院の操縦係りと言つたらば床次若槻兩氏を除いては他にあるまい、前者は原内閣時代の諒解係りであり後者は在野黨時代からの諒解係りであつた關係から貴族院の諸公の信任も深い譯である、餘り若槻さんは連日連夜諒解術を用ゐたものだから或る貴族院の議員は『もう御馳走は澤山だから話があるなら此處で聞きたい』と院内で悲鳴を擧げたといふ逸話がある、適々衆議院の出版法が提案されたる時鵜澤宇八氏の招待を受けて紅葉館に行つて居る留守をねらはれて、

政友會の三土忠造君から

『國務大臣は宴會に出席して議會を留守にして盃盤の間に歡樂を盡し以つて國務を忘れ——』云々

と鳥渡御見舞ひを頂戴して苦笑せしめたが原内閣時代にはもつと劇しかつた。陪審法案の通過を計つたとき悉く赤坂に呼んで御土産として縮緬一匹であつたといふ噂の種まで蒔いたほどだつたから若槻さんはあの質問書を保存して

おいて政友會内閣が出来たとき返上したらば如何。

△陸軍の機密費問題で連日陸相が苛め抜かれ、最終日は御念入りにも政友會から確められ次に新正俱樂部の清瀬一郎君が再三の質問をするといふので陸相もすつかり氣を腐らして了つてゐた、その日の朝午前九時頃陸軍の政務次官であり貴族院のリーダーである水野直子より床次本黨總裁に電話を以つて

「何とか中止にして下さる方法がないか、御盡力を願ひたい」

との懇請があつた。

幸に政友會の鼻いきが荒くて清瀬が演壇に立つたなら暴力を以つて引き摺り下ろすと宣告をしてゐたので、清瀬君も縮み上つて撤回したものだから水野政務次官どのすつかり喜んで早速、床次さんに御禮言上した。此邊が水野さんの黒幕としての活躍振りであらう。

△同じ政務次官としての活動でも労働組合法握り潰しに對して俵政務次官の本黨の元田國東氏訪問は餘り効能がな

かつた、長岡社會局長官も一緒にやつたがとんと効能がなかつた、その元田さん院内の控室で

「私さへ訪問すれば諒解がつくと思つてゐる、第一日本に労働組合なんて早いぢやないか」

これでは取りつくことも出来ない。

△その労働組合法は二月七日に提出されて三月廿二日まで放任されたまゝである、また出版法も三月九日に提出されて十八日まで日程に上提し放しで委員會は三度だけ開かれたといふ兩案共氣の永い代物で審議未了といふことになつてゐる。

△政府委員は時々屬僚呼ばりされることがある。

税整委員會では大藏省の政府委員や法制局の連中は元田委員長から完全に屬僚呼ばりをされて當惑顔であつた此の場合には兎も角も先輩であるので我慢も出来る。

△塚本書記官長が衆議院に於ける議院法中改正案（豫算審議決定の件）の委員會で政友會の板野友造君から屬僚呼ばるをされて塚本さんも色をなした。

△地方局の田中廣太郎君も政府委員として地方制度改正の委員會で政友會の松實喜代太といふ猫背の老人から屬僚呼ばりをされて

「松實の老人奴忌々しい男だ」

齒ざしり嚙んで口惜しがつてゐた。

△江木法相のスパイ事件に關する捜査に就ての政友會の砂田重政君の質問に答ふるべく、司法省の立石刑事局長が演壇に立つたら政友會席から

「お前は誰だ、名乗れ」をやられた樺太醬油稅廢止について政友會の石坂豐一君の質問に答ふるべく演壇に立つた

昌谷樺太長官も

「名乗れ、引込め」を喰ふし外務省の矢吹政務次官も此の手を喰つたものだ、所が憲政會が野黨時代にも此の惡戯は繰り返へされた、現に政友會に居る井上孝哉が議員として普選反對論をやるべく演壇に立つと鈴木富士彌君當りが

「お前は誰だ、名乗れ」

を喰つて

「井上孝哉であります」

と名乗りを擧げたのは有名である。段々此の名乗りを請求された人を調べたら驚くなかれ、若槻首相が確か阪谷さんが大藏次官のときであつたと云ふが主稅局とかに事務官をしてゐるとき議場に大藏省の政府委員が居ないので止むなく説明委員として演壇に現れたら

「お前は誰だ」

を喰つて答辯上手の若槻さんは眼を白黒したといふ話である、大抵の者はこれを喰ふらしいそれが一つの修養であり活きた學問である。若槻さんの答辯を評して貴族院では「若槻の答辯は恰も油壺のどぜうで搦むことが出来ない」と言はれるほど巧者になるも若い時に野次られた御蔭である、今、兵庫縣知事になつてゐる山縣治郎君すらも「議會で政府委員として少し修業したことが役に立つて縣會議員の質問は喰ひ足りなくて困る」

と法螺を吹いてゐる位だから、知事になる人には立派な稽古臺である。

△政府から法律案を議會に提出するとき必ず参考書といふものがつきものだ、委員に配付する外に卅五部といふものが事務局にとられてゐる、事務局の書記官連を始めとして頭株連中のホマチである。役得となるのである。これを忘れてゐると嚴重な抗議が来る許りか直ちに敵打ちをされる今年もあつちこつちで新米の屬官共が失敗をして怒鳴り込まれた悪い制度である。

△議會中は代議士共がよく威張つて参考材料を取りに来るものだが、竹内大藏政務次官どのが北海道の件につき何か参考材料が欲しくて内務省の政府委員室へやつて来て、『誰か北海道の者は居ないか』

合樽山田老人が居なくて新米の特別任用の橋本といふ事務官が一人居て、先生竹内の顔を知らんもんだから

『いやに横柄な奴だなア』と思つたものだから
『今手許にありません』と遮絶したので竹内次官、カン／＼に怒り。俵政務次官に抗議を申込むやら

『北海道には政友會の廻し者が居る』

と吹喋して歩くやら、中川長官もすつかり弱り切つて山田老人をして要求の材料を持たして大藏省政府委員室に伺候させて、漸く竹内次官どこの御機嫌が直つたといふ、這麼逸話やら失敗談やらは常にきかされる。

△議會も終了の日が近くと各政黨の控室で旺んに揮毫が行し陳笠共が雄筆を揮つてゐる、政友會では揮毫御斷りの禁札を張つて幹事室に一步も侵入者を入れしめない。時々小川平吉老、三土忠造、東武、大口喜六、山本梯二郎の諸氏が守衛に依頼を受けたり自黨の陳笠にたのまれたりして揮毫するが二三枚書くと御斷りと来る。

憲政會では町田、箕浦兩氏が筆頭として望小太老も書く政友本黨では元田國東一手販賣の觀がある、陣笠級では達磨を描くやら蘭を書くものやらあるが何となく有難くない其處へ行つてはやはり小川平吉老の射山、箕浦さん、山本梯二郎、元田國東、武藤山治氏の南畫などは書いて貰ひたい組である。一體此等の人達が店を開くと守衛やら給仕が蝶集する、犬養さんが決して書がないので尤も有難がら

れて居る一人である。尾崎さんも其の部類に屬する。大臣級に至つては克堂即若槻首相の書の外餘り感心しないもの許りである。經師屋に値段をきいたらば、

『若槻さん、元田さん、尾崎さんなどは十二三圓で仲間賣買の値段です、犬養さんや後藤さんのものなら五十圓以上出します』

△三月廿四日の本會議に都市計畫の第五條による區劃整理に關する問題で、東京市部選出の各派代議士は自分の地盤に密接なる關係があるものだから政府原案に決して賛成しない、殊に高木益太郎君と來たらば日本橋の地盤扶植に尤も熱心であつて従つて復興局攻撃に終始してゐると言つてもよい位である。

『復興局を目して不都合局である』と呼稱してゐるほどで此の高木君には復興局の幹部大いに惱まされて居る程だから高木君に武器を與へた様なものだから同志を語らつて早速反對を標榜し委員會では政府案を修正して了つたから清野長官蒼くなつて驚いた、與黨に泣きを入れて原案通過と

いふ諒解を得たのでホット安心はしたものの、其の日の代議士會では、高木君、作間耕逸君一派が大反對で幹部と意見を異にして、

『それでは私は脱黨をします』

と許りカバンを抱いて飛び出したほどの騒ぎをやつたその午後の本會議には罹災民が傍聽席に詰め掛け採決の際に市部選出代議士がどんな態度を取るかと鵜の目鷹の目で監視、愈々採決になつたとき政府原案賛成者として横山勝太郎、三木武吉、中原徳太郎、頼母木桂吉の四君が青票を投じ殘餘の連中は敵味方なく反對の白票を投じたので、結果原案一七三に對する青票一九九といふ僅かに廿六票の差で破れた。高木一派口惜しがつて

『政友會もう少し出席して呉れば政府をしてベソを搔かしてやるのに』傍聽者は小聲で『よく覺えておかうね、震災氏の同情のない代議士に投票は御免を蒙らう』

と怒るまいこと乎。青票を投じた諸君要心が肝要で御座るぞ。(終り) 御退屈様